あなたも再発見
市民解説員は、身近な場所のいわれや先人たちのあゆみを学ぶお手伝いをします

令和5年8月2日㈬・3日㈭の2日間、令和5年度にあきる野市の小・中学校に新規採用された27人の教員を対象とした「若手(1年次)教員研修会」が開催されました。

その中の実習科目「戸倉周辺散策学習」の現地学習において、教育委員会指導室から派遣依頼を受けた市民解説員6人が担当し、案内・解説しました。

受入れにあたって

派遣依頼を受け、市民解説員の中から担当解説員を募集し、さらに、市民解説員として戸倉周辺の何を学んでもらいたいのか、どのようなコースを設定したら、あきる野市の良さを知ってもらえるのかなど数回にわたり意見交換を行い、自然系と人文系の2つのコース案を設定しました。

その後、教育委員会指導室とも相談しながら、最も特徴的な現地見学を取り入れた自然系コースに決めました。

見学コースは、戸倉しろやまテラス－①横井戸－②チャート露頭－仏像構造線形跡－（新高橋）③四万十帯千枚岩露頭－（刈寄林道）－（逆沢林道分岐）④仏像構造線断層露頭－⑤新久保川原橋－⑥沢戸橋－⑦崖崩落地－戸倉しろやまテラスの順に、解説員が解説・案内しました。

①横井戸　この付近の地形は麓屑面と称される緩斜面で、城山を形成する硬い地層の上に堆積する砕屑物と粘土層の間を流れる地下水を、横穴を掘って取水するようになっている、他では珍しい「横井戸」です。

②チャート露頭　チャートは硬い岩石ですが、海にいる放散虫と言うプランクトンで、生物でできています。放散虫はガラス質の殻をもっていて、その殻が4000m以上の深海で1年に1㎜という、とてもゆっくりとした速度で堆積したものといわれています。秩父帯の特徴のある岩石です。

③四万十帯の千枚岩　新高橋の下を流れているのは秋川の支流である盆堀川です。橋の下に見える黒い石の名前は千枚岩と言います。四万十帯の岩石で、泥岩が圧力変成を受けて薄く割れやすくなった石です。

④仏像構造線露頭　ここは大きく分けて3つの部分からなっています。まず左側の真っ黒な地層、真ん中の少し青みがかった地層、そして右側の少し茶色っぽい地層です。左は四万十帯の千枚岩、右が秩父帯の砂岩やチャートです。

四万十帯とは約1億年前の白亜紀の付加体で、秩父帯は約1億5千年前のジュラ紀の付加体。四万十帯と秩父帯を分けているのが仏像構造線ということなので、真ん中が仏像構造線の断層ガウジとなります。左から右に移動すると、6千万年近くをまたいだことになります。

この「仏像構造線」は、本州から四国・九州まで続いています。四万十帯と秩父帯とを分ける断層で、このように鏡肌がはっきり見ることのできる露頭は大変貴重な場所といえます。「仏像」は、四国高知の佐川～須崎間に位置する虚空蔵山(675m)の東南側中腹にある小集落の名称から名付けられたそうです。

⑤新久保川原橋から　戸倉城山（434m）が見えます。鉄塔の辺りの左側が低く、右側が高くなっていて、地元では「首を傾げたような形」と言いますが、これは仏像構造線が通っているためです。左側が四万十帯の砂岩や泥岩、右がチャートや固い砂岩であるために、柔らかい四万十帯の方が侵食が早く、あのような山の形になったものです。

⑥沢戸橋から　江戸の繁栄に伴い、秋川流域からも木材の産出が行われるようになりました。

当初は天然林を伐採していましたが、江戸時代後期の天保期（1830～1844）になると人工林が植栽されるようになり、多くの材木が産出されるようになりました。

秋川の支流は流量が少ないため、伐採した木材は一本ずつバラバラにして流す、菅流しの方法で下流へ輸送されました。そして流量が安定した広い川原で木材が集積された場所が土場と称され、そこで筏に組まれ、まとまって搬出されるようになりました。戸倉地区ではこの沢戸橋下の盆堀川・刈寄川が秋川に合流する川原などで筏に組まれ、上荷と称される木炭やスギ皮など荷物を積み、筏乗りが秋川や多摩川を下り、丸子・六郷へ運びました。

土場『五日市の百年』より

⑦崖崩落地　2019年秋の台風でこの下が崖崩れを起こし、大きな災害となりました。原因ははっきりとしていませんが、土壌が大量の雨を含んだこと等で崩れ、下を流れる盆堀川を堰き止めたことで氾濫したと考えられます。その後、修復されましたが、ここで使われているのは発泡スチロールの建材です。重さに耐えられるような軽いものを使用しています。

若手教員研修の「戸倉散策学習」を担当して
～市民解説員より～

○本年は明治6年の小学校開校以来、ちょうど150年目の年です。着任5ヶ月後の研修で、「戸倉」の地理的位置に戸惑いながらも、さすが、みなさんいい目をしていて、50年前の自分を思い出します。

あきる野の未来の礎を築く小・中学生、若きホープ、いや世界に羽ばたく人材を育てて欲しいと期待してやみません。

○市民解説員としては、1時間30分という限られた時間の中で、どれだけのことを伝えられたかとの思いもありましたが、市民解説員の存在と市民解説員活動の様子を知っていただけたのは大きな収穫ではなかったかなと思っています。

また、今回の研修では、想像を絶するほどの長い時間をかけて地質が形成され、地質が地形を決め、それを人が利用するという自然のつながりを感じ取っていただけたのではないかと思います。

市の歴史・文化、自然のことなら、お気軽にご相談ください

市民解説員は、現在、68人が登録しています。様々な要望に応えるべく、自主勉強会を組織し、それぞれの分野で日々研鑽を重ねています。

歴史勉強会

最も古くから活動している勉強会です。例会は、毎月第3水曜日の午後。内容は、NHKの高校講座「日本史」の視聴や放送大学の振り返り、会員同士の課題研究発表などです。

民話の会

第2水曜日の午前中を中心に例会を持ち、郷土や周辺地域に伝えられている民話や昔ばなし、歴史伝説などを発掘・採譜し、定例発表会や市民解説員発表会、ヨルイチ等で語っています。

藍生葉染めの会

地域で古くから育てられていた「タデアイ」を各会員が育て、夏の時期に体験会を開催し、ハンカチやTシャツ、トートバッグなど、発酵させた「藍」とは違った、生葉独特の薄藍色に染まった作品を生み出しています。

このように、市民解説員はいきいきと活動しています。お手伝いできることがあれば、お気軽にご相談ください。

中央公民館　二宮683
電話559－1221